

工学基礎学類

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者	受験者	合格者	入学者		
	1年次	120 0 (120)	358 2 (450)	358 2 (450)	141 1 (141)	135 1 (126)		
	編入学・再入学	10 0 (10)	24 0 (34)	24 0 (32)	18 0 (20)	13 0 (13)		
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	135 0 (131)	27 0 (25)	25 0 (23)	0 0 (0)	2 0 (2)	0 0 (0)	103 0 (95)	5 0 (11)

・ () は前年度の数値を， は外国人留学生を内数で示す。

1 工学基礎学類の活動

【教育】

平成10年度に改組した工学基礎学類が13年度に初めて卒業生を出したのを機会にカリキュラムの見直しの作業を始めた。以前から学力低下の防止を目的として学力検討委員会を学類運営委員会の元において対策を行ってきており、1, 2年生の重点科目に対して講義演習一体型の少人数クラスの教育システムを導入したが、その成果がようやく現れてきている。今年度からの新しい試みとして、1年次の科目の単位を落とした学生が再履修で再び不合格となるケースが多いのを鑑み、必修である基幹科目に再履修者クラスを別に設けて特別教育をおこなった。この措置によってきめ細やかな少人数教育が行える利点に加えて、再履修科目が2年次の必修科目と時間で重なる不都合を回避でき、受講生にも大変好評であった。専門科目の内、比較的予備知識のいらぬ4科目を2年次におろして、早くから学生の専門に対する興味を促進させるように配慮した。

TAの配置が行われているとはいえ、教官の教育負担増は年々大きくなっており、更に改革を行うには非常勤講師の増員と活用などを考慮する必要がある。学類発足以来、実験設備の充実を図ってきたが、今年度は工学基礎情報処理に用いている学類コンピュータールームに液晶プロジェクターを設置して、授業の効率化を図った。

本年度の入試(15年度に対応)では、個別入試で志願者の目立った増加が見られ、工学基礎学類としての社会の評価がようやく上がってきたようである。特に後期入試では志願者倍率が10倍を超えた。

【学生生活】

今年度もクラス代表と教官との直接の意見交換の場であるクラス連絡会を2度開催した。2回とも今まで以上に多くの出席者があり、学生側から活発な意見・提案が出された。長時間にわたる会合であったが、学生、教官ともに最後まで活気にあふれ、充実した時間を持つことができた。

駐車場が有料化、ゲート化されたことに対して最初は学生側の不満が多かったが、通学に車を使わないことが徐々に定着しつつあるようである。そのせいもあってか、本年度は学生が加害者となる大きな交通事故や違反が無かった。反面、年度末になると卒業研究のために帰りが遅くなる学生が増えるため、自転車通学の安全性を十分に配慮する必要がある。年度末にはひたたくり事件が続発したが、工学基礎学類には被害者が出なかった。

2 教員の教育業績評価の状況

重点化した1, 2年の基礎科目では、小テストとレポート提出を毎週行っており、担当教官にとって採点と指導が大きな負担となっている。分割した小クラス間の進捗をそろえ、評価基準を統一するために、担当教官は頻りに連絡を取り合う必要があり、更に負担を大きくしている。特に各科目においた科目責任者の任務が重い。これらの点を十分に考慮して教育業績評価の材料としたい。

学力検討委員会では特に若手教官からの提案と活動が活発で、学類教育がずいぶん改善された。毎年行っている学生による授業アンケートでも評判のよい講義を担当している教官は評価の対象としたいが、定量的に教育業績を絶対評価するのはかなり難しいのが現状である。

3 自己評価と課題

高等学校へ教官が直接出向いて授業を行う出前授業を例年以上に活発に行った成果の現れか、上記のように今年度は受験生がかなり増加した。大学説明会に加えて3度おこなった一日体験教室も好評であった。基礎工学類から工学基礎学類へ移行したときには組織変更の内容がわかりにくいなどの批判を受けたが、地道な広報活動が実を結びつつある。一方、在学中に工学基礎学類から他学類へ転学を希望する学生が第三学群中もっとも多いのは、今後も検討を要する課題である。昨年度学類名と主専攻名に対して高等学校へアンケート調査を行ったが、名称から内容がわかりにくいという意見があったことを再認識し、今後も転学類が多い状況が続くなら名称変更も検討する必要がある。

4 その他特記事項

15年度に審査を受ける予定のJABEE(日本技術者教育認定機構)対策として、「技術者倫理」の開設、成績評価資料の保管などの準備を行ってきたが、総合的に再検討した結果、現在のJABEE審査方式には工学基礎学類の学際的教育システムが符合しないと判断に至って、2年後の17年度に受審することに変更した。

3年次生の申請したプロジェクトが研究者を対象とする「未踏破ソフトウェア創造事業」に採択された。